

2015年度 センター試験 日本史B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	○ あり ● なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	
<p>総評 形式も難易度も一般的な問題であり、グラフ（1点）や写真（2点）、史料（5点）、地図（1点）などの出題も例年通りであった。時代状況の把握力まで必要な時代配列問題や出来事の年代からグラフを分析させる問題も例年通り出題されているが、これらは単純な歴史用語の暗記だけでは太刀打ちできないため、日頃の学習の成果で差がつきやすい。なお、戦後史は昨年度の4題から2題に減少した。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	海を越えた人々の往来	12点	日本人の海外移住者のグラフや朱印状の写真を用いた、定番の会話形式からの出題であった。昨年同様にグラフ問題は選択肢の年代を判別してから分析する必要があった。古代・中世史は遣唐使や貿易など標準的な問題であった。
第2問	原始・古代の農業と社会の変化	18点	原始の社会生活の正誤判定問題はセンター頻出である。農具の写真や荘園の史料など教科書レベルの標準的なものが使用されており、高得点を狙いたい。問6に史料問題が出題されたが、センターの史料問題は設問と史料の読み合わせが必要である。
第3問	中世から近世初期までの政治・社会	18点	Aは泰時の消息文の史料を用いた問題で、これは頻出史料である。しかし、センターの史料問題で空欄が3カ所抜かれたのはここ数年には見られず、戸惑った生徒もいるだろう。Bは信長や秀吉の天下統一事業に関する問題で標準的であった。
第4問	近世の政治・経済・社会	17点	Aは近世の飢饉を題材とした政治・経済・社会に関する標準問題。Bでは未見史料が出題され、その読み取りの正誤判定問題が出題されたが、注釈をうまく利用すれば読解は難しくはなかった。
第5問	明治期の立法機関	12点	明治期の立法機関が題材になっているが、実際には文化や経済に関する問題も含まれていた。問4で鉄道国有法案の審議に関する議事録が使用された。これも未見史料ではあるが、前問同様、設問と史料を照らし合わせれば容易な問題であった。
第6問	林芙美子の人物史	23点	作家林芙美子が題材になっているが、人物に関する知識ではなく、その生きた時代を問う問題。例年センターでは地図問題が出題されるが、今年は南京とシンガポールを選ぶ問題であった。